

事業計画書

第9期（令和6年8月1日～令和7年7月31日）

一般社団法人ハビリスジャパン

I 活動方針

1. 手や足に特徴のある子どもたちの成長と活動に“適した“環境を整えることで一人ひとりの可能性を広げ、成長を支え、未来を育む支援を行う。
2. 手や足に特徴のある子どもたちが、それぞれに適した義手や義足などを活用できる環境を整え、社会参加に向けた包括的な支援体制を構築する。また、活動に安全に挑戦できるための情報提供と交流の場を提供する。
3. 医療・教育機関等の関係する団体と連携しながら事業を実施することで、子どもたちが挑戦できる場の拡大を目指す。
4. 積極的に情報発信を行うことで社会への認知度向上を図る。

II 今年度の主な事業

1. 手や足に特徴のある子どもたちの社会参加の支援事業

手や足に特徴のある子どもたちが、より良い社会生活を送るための機会創出を目的とするイベントを継続的に開催する。子どもたちが居住地に関係なくイベントに参加できるよう、会場に集う形の対面と Web 会議システム（ビデオ通話システム）を併用した形でのイベントの開催や地方での実施を継続して行う。全国の当事者や専門職、支援者や協力団体が参加・連携できる体制を実現する。イベント開催時には、参加者とスタッフの安全を最優先に考え、感染症予防対策を講じた上で実施する。

アクティビティ用義肢の利用促進を図ることを目的にスポーツや音楽、様々な活動に適した機能のある義肢（アクティビティ用義肢）の体験会を開催する。

新型コロナウイルス感染症の状況により Web 会議システム（ビデオ通話システム）を使用

- ① 双方向通信を用いた家族会
- ② 運動教室
- ③ 地方でのイベント開催（北海道 PAFF、大阪 PAFF、福井 PAFF）
- ④ パラテコンドー教室
- ⑤ 水泳教室
- ⑥ スキー・スノーボード教室
- ⑦ スライドリコーダー体験会・発表会 [三菱財団社会福祉事業・研究助成]
- ⑧ ネイル教室
- ⑨ アクティビティ用義肢体験会

2. リハビリテーション・ハビリテーションの教育・啓発事業

(1) 教育・情報交換会セミナー

当事者、専門職などの関係者間のつながりを緻密化し、支え合いの仕組みを強化することを目的に、先輩当事者自身の経験に基づいた情報・知恵の共有ができる場の提供を行う。また、オンライン講演会、セミナー、相談会等を実施する。講演会やセミナー内容については、当日参加できなかった当事者や専門職が後日視聴できるように録画し動画コンテンツを作成する。

- ・IVI（アイビー）Skills for Life professional 経験と知恵の共有 [ISPO 日本支部 共催]
- ・しゃべり場

(2) 専用サイトの充実

イベントで得られた知見や専門部会委員が研究した成果などを、専用サイトを通じて広く発信することにより、教育・啓発活動を行う。家族の体験談やインタビュー記事、パラスポーツ、パラスポーツ選手の体験談、当法人の活動などを掲載し、「知る」きっかけを提供する。

専用サイトアドレス（<http://habilisjapan.com>）

(3) ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）による情報発信

Instagram、Twitter、Facebook ならびに YouTube の専用アカウントからの情報発信を積極的に行う。イベントで得られた情報をタイムリーに発信することにより、専用サイトへ誘引し啓発活動を促進するとともに、会員増加（新規会員獲得および現会員の継続率増加）を目指す。

(4) マスメディアを通じた情報発信

イベント開催や研究で新たな知見を得られた際はマスメディアに対してニュースリリースを行い、取材対応をすることによって、本法人の目的を広く情報発信する。

(5) 絵本を通じた啓発活動

絵本「いろんなおてととぼく」の販売を継続し、全国にいる当事者家族や専門職などの関係者が絵本を入手しやすい環境を整える。また、手足に特徴のある子ども及び家族に関わる関係者が義肢や当法人について知る機会を提供する。

(6) PAFF ライブラリー

手足に特徴がある子どもとその家族向けの会員制コミュニティサイトの内部リニューアルを行う。参加者の増加とコミュニティの活性化を目的に、当事者（児童とその家族）が日常的かつ持続的に悩みを共有し、同じ特徴のある友達の挑戦方法を知ることができる方法を検討する。さらに、専門職や体操指導者の参加により、子どもたちが挑戦方法について相談できる場を提供し、専門職も知識と経験を共有できるコミュニティを目指す。

3. 小児用アクティビティ・日常生活用義肢等の開発・調査研究事業

(1) 身体運動能力向上のための調査

四肢形成不全児の健全な発達が促されるよう身体運動能力向上につながるプログラムの研究・開発・提供を目標とし、運動イベントでの体力測定を中心に子どもたちの身体運動能力のデータ収集及び、運動習慣や運動支援に関するアンケート調査を行う。また、得られた情報から日本製の小児用アクティビティ・日常生活用義肢等の開発につなげる。

(2) 運動用手先具の開発・調査

幼児教育・保育および小学校での子ども達の活動を支援するため、小児用アクティビティ・日常生活用手先具の開発を企業や各種団体と協力し進める。今年度は、新たな手先具の開発に向けて開発手先具の選定を含め今後の戦略を協力企業と検討していく。

(3) スライドリコーダーの開発

第54回（2023年度）三菱財団社会福祉事業・研究助成（令和5年10月～令和7年9月）

「スライドリコーダーの製品化と障害のある児童への適応評価、有用性の実証と普及支援活動」として5,700,000円の交付を得ている。今年度は昨年度製作したスライドリコーダーを用いて、体験会や発表会を開催することで適応のある障がいの検討と有用性の評価を行う。

4. 小児用アクティビティ・日常生活用義肢等のレンタル事業

今年度は昨年度開発した縄跳び用手先具スキッピーを新たに貸与部品として追加する。マット運動用絵手先具（TRS社製 Shroom Tumbler/今仙技術研究所社製 TamTam）、鉄棒運動用手先具（今仙技術研究所社製 Hamo）、筋電義手（Ottobock社製）の貸与は継続する。

イベントでは、運動用義手、義足を試用できる模擬義手を活用し、手足に特徴のある子どもたちが運動用部品を体験できる体制を整える。

5. その他、当法人の目的を達成するために必要な事業

(1) 会員、寄附者、提携サポーターの募集活動

本法人の目的を広く認知してもらうため、個人会員、賛助会員、寄附者の新規獲得を行うと共に現会員の維持に努め、長期的な運営資金を確保する。今年度は特にSNS・メディアによる情報発信や紹介者経路の強化を図り、個人・賛助共に、新規会員や新規寄附者の獲得を目指した活動を行う。また、既存会員・寄附者との関係性構築に注力し、継続率アップや会費・寄附額増等による収入安定化を目指す。賛助会員に対しては、企業を対象とした広報資料を作成し、協業・連携による関係性づくりを目指す。

個人会員 105 万円 賛助会員 55 万円、寄附額 100 万円として、合計を 260 万円/年を目指す。

(2) 各法人・団体・個人との連携・協力体制の構築と継続的な情報交換

全国の医療機関、義肢装具製作会社、義肢部品製造・販売会社、自治体、マスメディアならびに障害者スポーツ協会などの各種団体との連携を行う。またイベントを合同で開催する法人及び団体を

開拓しパートナーシップの構築を目指す。

貸与する運動用手先具や筋電義手の訓練の連携医療機関や運動用義足の運動支援の連携団体を増やし、将来的には日本全国で義手・義足を用いたアクティビティの活性化につながる体制づくりを目指す。

(3) 事務局体制の整備とクルーの増員、今後の運営

事業の拡大に伴い、イベント運営、会員へのお知らせや各種発送作業、各所への対応や準備・打ち合わせなどの業務が増加している。今年度も多くの事業が同時に動いており、さらなる効率化が求められる。引き続き、事務局体制の整備を目指し業務マニュアルの作成やシステム化を進め、誰もが対応できる体制を整えていく。加えて、本業を持ちボランティアで関わっているクルーを増やし事業の拡大に備えるとともに、全てのメンバーが無理なく持続的に活動できる基盤を整備していく。